

(4) 地衣類

(ア) 地衣類の概要

地衣類は菌類と藻類の共生体で、両者のバランスにより地衣体が成り立っている。地衣類の成長速度は大変遅いとされ、特別の種類を除いて、環境の変化にも弱いものが多いといわれている。ウメノキゴケやマツゲゴケのように大気汚染の指標生物として知られるものもある。また、地衣類は着生生物でもあり、その基物は樹皮であったり岩石、土壌、腐植質、林床のコケの上、常緑広葉樹の葉上等さまざまである。樹皮生とはいっても幹の根元付近にコケと混ざって生えるもの、太い幹の樹肌或いは枝先の小枝に着生するもの等、また特定の樹種を選ぶものもある。岩石生にしても石灰岩或いは珪質岩石といった特定の岩石のみに着生するものも知られる。これら着生基物や気候等への適応性の幅は種類によって大きく異なる。樹皮や岩石の基物を選ばないものもあり、なかにはコンクリートなどの人工的な構築物ができて、数年以内に着生する種類もある。特定の基物、限られた気候条件のもとでしか生活できない地衣、あるいはその他、何らかの原因で個体数や生育地の減少がみられる地衣がRDBの対象種となることは他の植物群と同じである。

今回の調査は2005年版とほぼ同様の調査法だが、その種類の選定は環境省版レッドリストカテゴリー（2007）に準拠した。同リスト（2007）に掲載された種類で本県に産するもの、文献や標本ラベルに記載されてその後はほとんど生育の記録がないもの、石灰岩等の特定の基物のみに着生して近年その生育地や個体数が減少していると思われるもの、本県の生育地が我が国の分布を見るときに、その限界（北限、南限等）に位置すると思われるもののうちでその生育地や個体数に減少がみられるもの、本県とその近辺の限られた地域のみに生育が知られるものでその生育地や個体数が減少しているもの等を対象とした。

分布や生育状況に関するデータは文献の他、国立科学博物館（TNS）及び埼玉県立自然の博物館で所蔵する標本のラベルデータをもとにした。その結果、2005年版の65種との比較で、2007年版環境省レッドリストの新規掲載種を含む5種を新たに追加し、誤認の1種を削除した計69種を2011年版埼玉県レッドリストの絶滅が危惧される地衣類として挙げた。そのカテゴリーは他の植物群と同様に環境省レッドリストカテゴリー（2007）によった。その内訳をみると、絶滅危惧Ⅰ類（CE）17種（2005年版より3種増）、絶滅危惧Ⅱ類（VU）23種（2種増）、準絶滅危惧種（NT）29種（1種減）となった。これらのうち、上位のカテゴリーに変更したのが2種、所属科名の変更が2種、さらに学名変更は4種、新たな和名の付与が1種となった（Kurokawa & Kashiwadani, 2006；環境省版レッドリスト、2007）。

ちなみに追加5種のうちウスキクダチイ（ウメノキゴケ科）、コヒラミツメゴケ（ツメゴケ科）の2種は絶滅危惧Ⅰ類（CE）に、ツブクダチイ（ウメノキゴケ科）、オオサビイボゴケ（サビイボゴケ科）、エゾハクフンゴケ（ムカデゴケ科）の3種は絶滅危惧Ⅱ類（VU）に位置付けた。また、絶滅危惧Ⅱ類（VU）にランク付けされていた種 ウメノキゴケ科ニセゴンゲンゴケ *Hypotrachyna exsecta* (Taylor) Hale は、県内での分布記録がなく、誤認であったためリストから削除した。

各論におけるこれら69種類の配列は「1998年版埼玉県植物誌、地衣類」になった。

絶滅が危惧される地衣類として挙げた2011年版レッドリスト69種のうち、そのほとんどの67種が秩父地域に稀産し、キンブチゴケ (*Pseudocyphellaria aurata*) とカバイロモジゴケ (*Graphis cervina*) の2種だけが入間地域で記録されている。キンブチゴケは愛知県以西に知られる暖地生の地衣で、県内では1978年の記録だけである。現在では、その生育地の環境は変わり本種を見ることはできず、その隣接地域にも見あたらない。テガタアオキノリ (*Leptogium palmatum* : 学名変更) については広島県と埼玉県の2カ所に知られるだけで、県内ではただ一度、旧両神村での記録（1955年、変種として記載された時のタイプロカリティ）だけである。また、トゲカブトゴケ (*Lobaria kazawaensis*) は群馬県（1925年、タイプロカリティ）と埼玉県（1932年）、新潟県（1949年）で各1回記録されているに過ぎず、その後半世紀を経ても県内は無論のこと全国レベルでも確認されていない。これら3種はすでに県内では絶滅したのかもしれないが、その判定は更なる

調査に待ちたい。

秩父地方には大小さまざまな規模の石灰岩地形がみられる。石灰岩生の地衣のなかには、開発その他の要因でその生育地や個体数が減少しているものが多い。ここでは石灰岩に直接着生するものとしてガリンイワノリ (*Collema callopismum*: 新和名)、アカツブノリ (*Synalissa symphorea*)、オオバキノリ (*Thyrea latissima*)、イシバイキノリ (*Thyrea confusa*: 学名変更)、フジカワゴケ (*Toninia tristis* subsp. *fujikawae*)、アカサビゴケ (*Xanthoria mandschurica*) の6種を挙げた。これらのうち、オオバキノリは徳島県と岡山県に、フジカワゴケは隣接する群馬県と長野県、そして岩手県に記録されている。これら2種はいずれも日本固有種である。ガリンイワノリは県外では四国の徳島県(剣山)に知られるだけで、アカツブノリは秩父山地が北限で本州以南に点在し、イシバイキノリは岩手県を北限とするが、これら3種は欧州、北米などにも知られる。アカサビゴケは北海道から本州にかけて分布するが、本県では秩父山地の石灰岩地等に稀産している。

ヒメトサカゴケ (*Leptogium lichenoides*) とヒラミヤイトゴケ (*Solorina platycarpa*) は石灰岩や石灰質土壌上だけに生育する。ヒメトサカゴケは本州中部(関東以南)から九州、欧州、北米等に分布するが、ヒラミヤイトゴケは日本特産種で、隣接する長野県その他、四国(徳島県)に飛び石分布する。クイシウメノキゴケ (*Hypotrachyna crenata*) は岩上生(樹皮上にも知られる)だが、同じように、本県のほか和歌山県と四国(高知県、徳島県)、台湾に飛び石分布する。固有種のクロカワアワビゴケ (*Nephromopsis kurokawae*) もまた同様に、樹皮生(岩上生もある)で、秩父山地と四国(愛媛県)だけに生育が知られる。

日本では、本県を含む中部山岳地を主な生育地としている種がある。コフキハリガネキノリ (*Bryoria nadvornikiana*)、アカゾメトコブシゴケ (*Cetrelia isidiata*: カテゴリーを上位の絶滅危惧Ⅱ類(VU)に変更)、ニューガサウメノキゴケ (*Hypotrachyna sinuosa*: カテゴリーを上位の絶滅危惧Ⅰ類(CE)に変更)、オオカムリゴケ (*Pilophorus acicularis*)、トゲタイワントコブシゴケ (*Platismatia erosa*)、ラマリナ・シナノアナ (*Ramalina shinanoana*)、コナヘリウスカワゴケ (*Tuckneraria laureri*)、ニッコウフクロゴケ (*Hypogymnia nikkoensis*)、フジキノリ (*Bryoria lactinea*) の9種にオオサビイボゴケ (*Brigantiaea nipponicum*: 追加種)、ウスキクダチイ (*Menegazzia squamatica*: 追加種)、コヒラミツメゴケ (*Peltigera nigripunctata*: 追加種) の3種を追加した。これらのなかでコフキハリガネキノリは北米にも知られるが、ラマリナ・シナノアナ、ニッコウフクロゴケ、ウスキクダチイ、フジキノリの4種は日本固有種であり、その他のアカゾメトコブシゴケ、ニューガサウメノキゴケ、オオカムリゴケ、トゲタイワントコブシゴケなどは本州中部から台湾に飛び石分布する。コフキハリガネキノリに類似するコフキイバラキノリ (*Bryoria furcellata*) もコフキハリガネキノリと同じような分布をするが、本種は岩手県にも知られる。コナヘリウスカワゴケは秩父山地およびその周辺の亜高山帯に稀産するほかヨーロッパアルプスに分布する。

また、ツブクダチイ (*Menegazzia caviisidia*: 追加種) は、さらに和歌山まで分布を拡げ、台湾まで及んでいる。エゾハクフンゴケ (*Physconia hokkaidensis*: 追加種) の主産地は北海道であるが、本州青森まで知られていたが、今調査で埼玉秩父にまで分布が拡大したことになる。

なお、ニューガサウメノキゴケとトゲタイワントコブシゴケは1997年版環境省のレッドリストにそれぞれ絶滅危惧Ⅰ類(CR+CE)と準絶滅危惧種(NT)として新規に掲載された種であるため、本県の2011年版でもニューガサウメノキゴケのカテゴリーを上位に変更し、トゲタイワントコブシゴケについては現状維持とした。オオサビイボゴケについても新たに掲載した種である。

キセガワノリ (*Thyrea asahinae*) やミタキノリ (*Thyrea hondoana*) は着生基物が川岸の岩石(非石灰質)に限られ、本州、四国、九州、中国大陸に点在することが知られているが、本県では長瀬付近の荒川の川岸に生育がみられるだけである。モクズゴケモドキ (*Psorula rufonigra*) とカバイロイワモジゴケ (*Graphis cervina*) はともに本州中部以南の暖かい地方に生育が知られている。県内でのモクズゴケモドキは秩父の荒川川岸と小鹿野町の観音山に記録があるが、カバイロイワモジゴケは入間郡越生町で確認されているにすぎず、その個体数は極めて少ない。

ウラジロオオイワブスマ (*Lasallia sinorientalis*: 学名変更) は秩父山地が分布のほぼ北限に相当すると思われる、その生育地や個体数は極めて少ない。ハコネゴンゲンゴケ (*Hypotrachyna revoluta*)、コウヤウメノキゴケ (*H. koyaensis*)、ノダケウメノキゴケ (*H. nodakensis*) などのゴンゲンゴケ属 (*Hypotrachyna*) には暖地生のものが多く、これらのなかには隣接県に知られるものもあるが、おおむね北限とみられる。ヤマトフクロゴケ (*Hypogymnia metaphysodes*)、トゲヨロイゴケ (*Sticta weigeli*)、オオスルメゴケ (*Tuckermannopsis ulophylloides*) 等も同じように秩父山地がほぼ北限とみられ、その生育地や個体数は少ない。

本州中部以北の高山や極地の岩石などに生育が知られる地衣が、県内では十文字峠やその付近のごく限られた亜高山帯上部に稀産するものがある。タカネイワタケ (*Umbilicaria vellea*)、アナイワタケ (*Umbilicaria torrefacta*)、イリタマゴゴケ (*Arctoparmelia incurva*)、クロダケトコブシゴケ (*Asahinea scholanderi*)、コガネトコブシゴケ (*Asahinea chrysantha*)、コナタカネゴケ (*Melanelia soledata*)、タカネゴケモドキ (*Melanelia hepaticum*)、アワモチゴケ (*Lecanora decorata*) などの岩上生 8 種に樹皮生のキゴヘイゴケ (*Parmeliopsis ambigua*) 1 種を加えた 9 種を掲載した。同様の基準で亜高山性のツブカブトゴケ (*Lobaria tuberculata*)、フイリツメゴケ (*Peltigera didactyla*) の 2 種も加えた。これらの種の分布や生育環境は国立公園内の特別保護区内に多くあるため、大局的な観点からいえば、安定した環境といえるので、現状で推移しているものと思われる。なお、コナタカネゴケは 2007 年版環境省のレッドリストに情報不足 (DD) として新規に掲載された種である。

固有種のヘラゴケ (*Glossodium japonicum*) は、山地から亜高山帯の安定した森林の針葉樹の朽ちた切り株や朽ちた立木上に生育する地衣で北海道~九州に点在するが、秩父山地には極めて少ない。その秩父、三峰山がタイプロカリティになっているが、今では、その着生は確認できていない。なお、本種は 2007 年版環境省のレッドリストでは絶滅危惧 I 類 (CR+EN) として新規に掲載された種である。

ラッパゲジゲジゴケ (*Anaptychia hypochraea*)、イトゲジゲジゴケ (*Heterodermia boryi*)、チヂレゲジゲジゴケ (*Heterodermia dissecta*)、コツブセンニンゴケ (*Baeomyces aggregatus*)、センニンゴケ (*Dibaeis baeomyces*)、トガシアワビゴケ (*Tuckneraria togashii*)、コフキザクロゴケ (*Loxospora glaucumiza*)、アオウロコゴケ (*Lichenomphalia hudsoniana*) の分布や生育状況はいずれも狭く、限定的で、個体数も少なく着生面積も狭くなっている。

秩父山地の低山から亜高山まで分布しているサルオガセ属 (*Usnea*) 地衣については、本属の地衣体がその生活形に起因して、大気汚染や森林開発などの環境変化に極めて弱いことが知られている。リストアップしているアカサルオガセ (*U. rubrotincta*)、アカヒゲゴケ (*U. rubicunda*)、ナガサルオガセ (*U. longissima*)、ヨコワサルオガセ (*U. diffracta*) の 4 種のうち、ナガサルオガセやヨコワサルオガセの既存産地においては、現在でも多量の着生がみられ、絶滅を危惧する状況ではないという感もある。しかしながら、着生が見られなくなったところなど長年の調査経験から、その分布域などは確実に狭まっているといえる状況にある。

※「地衣類」は最近の分類学体系では「植物」ではなく「菌類」に含められている。

※次の各論中の項目「県内分布状況」で示した (TNS) は「国立科学博物館植物標本庫」に標本が保管されているとの意。

(イ) 文献

環境省 (2007) . レッドデータブックカテゴリー . http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html

環境省自然環境局野生生物課 (2007) . レッドリスト (植物 II) 地衣類 . http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html

環境省自然環境局野生生物課 (2011) . 改訂レッドリスト付属説明資料 地衣類

Kurokawa S. & H. Kashiwadani (2006) . Checklist of Japanese lichen and allied fungi. *Natn. Sci. Mus. Monogr.* 33. 157pp. National Science Museum, Tokyo

4001 (イワタケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ウラジロオオイワブスマ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Lasallia sinorientalis* J. C. Wei

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域で、唯一の産地記録があるだけである。1995年以降の採集記録はない。他県においても、量的にも少なく、減少傾向にあると思われる。

【県内分布状況】 三峰山妙法ヶ岳（県内唯一の産地）

【県内生育状況】 山地の非石灰質岩上に着生する。

【特記事項】 学名変更。埼玉県～四国まで分布する葉状地衣。県境となっている山梨県側雲取山からも記録されている。妙法ヶ岳での着生は再確認できていない。

4002 (イワタケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 アナイワタケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Umbilicaria torrefacta* (Lightf.) Schrad.

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯の高山性地域に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 大山、武信白岩、三宝山

【県内生育状況】 山頂や尾根筋の高山性風衝地、岩角地の非石灰質岩上に着生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～本州中部、九州の高山帯または高山性地域に分布する葉状地衣。

4003 (イワタケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 タカネイワタケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Umbilicaria vellea* (L.) Hoffm.

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯の高山性地域に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 武信白岩、大山

【県内生育状況】 山頂や尾根筋の高山性風衝地、岩角地の非石灰質岩上に着生する。

【特記事項】 北海道～四国の高山帯または高山性地域に分布する葉状地衣。近隣では八ヶ岳や西駒ヶ岳などに記録がある。

4004 (イワノリ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 ガリンイワノリ

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Collema callopismum* A. Massal.

【評価所見】 希少種かつ稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産するが、量的には極めて少ない。1960年代に記録されているが、その後の採集記録はない。

【県内分布状況】 三峰山妙法ヶ岳（TNS）、武甲山（TNS）

【県内生育状況】 秩父山地の石灰岩露頭やコンクリート造作物上に着生する。

【特記事項】 和名変更。本州中部および四国に分布する鱗片状地衣。TNSに保管される標本のラベルに記された産地からの再発見報告はない。

4005 (イワノリ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 テガタアオキノリ

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔学名〕 *Leptogium palmatum* (Huds.) Mont.

【評価所見】 希少種かつ稀産種。秩父両神山山麓で採集され、新変種として記載された（Kurokawa, 1956）が、その後の新たな産地報告はない。

【県内分布状況】 秩父両神山山麓日向大谷（TNS）（県内唯一の産地）

【県内生育状況】 岩石上のコケの間に着生する。

【特記事項】 学名変更。母種に含められ、埼玉県と広島県だけに分布する葉状地衣だが、県内においては絶滅のおそれが大きい。

4006 (イワノリ科)

〔和名〕 ヒメトサカゴケ

〔学名〕 *Leptogium lichenoides* (L.) Zahlbr.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域で産するが、量的には少ない。石灰岩採掘により産地が失われたところもある。

【県内分布状況】 武甲山、二子山、赤沢岳、梓白岩、奥秩父林道沿い、白岩山

【県内生育状況】 山地帯以上の石灰岩や石灰質土壌上に直接、あるいはコケと一緒に着生する。

【特記事項】 本州～九州に分布する小さな樹枝状形の集合、暗褐色のマット状となる。近隣では群馬県の叶山などでも記録されている。

4007 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕 イリタマゴケ

〔学名〕 *Arctoparmelia incurva* (Pers.) Hale

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯の高山性地域に産するが、群生することはない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 大山、武信白岩、三宝山、雁坂峠

【県内生育状況】 山頂や尾根筋の高山性風衝地、岩角地の非石灰質の岩上に直に着生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～本州中部の主として高山帯に分布する葉状地衣。奥秩父の長野県の金峰山にも記録されている。

4008 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕 コガネトコブシゴケ

〔学名〕 *Asahinea chrysantha* (Tuck.) W. L. Culb. & C. F. Culb.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯の高山性地域に産する。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 十文字峠、大山、三宝山、雁坂峠

【県内生育状況】 山頂や尾根筋の高山性岩角地の地表面の非石灰質岩上に着生する。比較的大きなコロニーとなる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。日本固有種。北海道～本州中部の主として高山帯に分布する葉状地衣。

4009 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕 クロダケトコブシゴケ

〔学名〕 *Asahinea scholanderi* (Llano) W. L. Culb. & C. F. Culb.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯の高山性地域に産する。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 大山、武信白岩

【県内生育状況】 山頂や尾根筋の高山性岩角地の地表面の非石灰質岩上に着生する。他の地衣と混生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。日本固有種。北海道～本州中部の主として高山帯に分布する葉状地衣。長野県には、八ヶ岳などたくさんの産地がある。

4010 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕 コフキイバラキノリ

〔学名〕 *Bryoria furcellata* (Fr.) Brodo & D. Hawksw.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産する。量的には減少傾向にあるが、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 両神山、三峰山、雲取山、将監峠、三国尾根

【県内生育状況】 山地帯から上部にみられる、主にカラマツなどの針葉樹の樹皮や枝上に着生し、垂れ下がる。

【特記事項】 日本固有種。本州、岩手県以南の中部に分布する樹枝状地衣。県境の長野県側カラマツ林には普通に見られる。

4011 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

〔和名〕 フジキノリ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Bryoria lactinea* (Nyl.) Brodo & D. Hawksw.

【評価所見】 秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産する。大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 甲武信岳、雲取山、両神山、白岩山、雁坂峠、将監峠、大山

【県内生育状況】 山地帯から上部にみられる、主に針葉樹の樹皮や枝上に着生し、垂れ下がる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。日本固有種。本州中部に分布する樹枝状地衣。類似種と混生するので、注意が必要である。

4012 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類 (CE)

〔和名〕 コフキハリガネキノリ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Bryoria nadovornikiana* (Gyeln.) Brodo & D. Hawksw.

【評価所見】 希少種かつ稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産する。県内唯一の産地が記録された 1986 年以降、分布報告はない。

【県内分布状況】 三宝山 (県内唯一の産地)

【県内生育状況】 亜高山帯のカラマツなどの幹に着生し、垂れ下がる。

【特記事項】 本州中部に分布する樹枝状地衣だが、今のところ埼玉県と長野県で確認されているに過ぎない。類似種と混生するすることが多く、見落としているのかもしれない。

4013 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU)

〔和名〕 アカゾメトコブシゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Cetrelia isidiata* (Asahina) W. L. Culb. & C. F. Culb.

【評価所見】 秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産するが、量的には減少傾向にある。1993 年以降の新たな記録がない。

【県内分布状況】 雲取山、大平山、両神山、三峰山、赤岩峠、古礼山、三国尾根、雁坂峠

【県内生育状況】 山地帯から上部にみられる針葉樹等の樹皮上に着生する。

【特記事項】 カテゴリを上位の現カテゴリに変更。本州中部に分布する葉状地衣。類似種との混生もあり、混同することもある。

4014 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

〔和名〕 ヤマトフクロゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Hypogymnia metaphysodes* (Asahina) Rass.

【評価所見】 稀産種。秩父山地の亜高山帯地域に産し、量的にも少ない。唯一の産地となった 1981 年の記録以降、その後の分布報告はない。

【県内分布状況】 真の沢谷 (県内唯一の産地)

【県内生育状況】 山地の登山道脇マツ類の幹部の樹皮上に着生する。

【特記事項】 北海道から九州にかけて分布する葉状地衣。県境となっている雲取山と将監峠の山梨県側では記録されている。類似種と混生する。

4015 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

〔和名〕 ニッコウフクロゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Hypogymnia nikkoensis* (Zahlbr.) Rass.

【評価所見】 秩父山地の亜高山帯地域に産する。2005 年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 雲取山、和名倉山、地藏岩 (雁坂峠付近)、突出峠、三国尾根、武信白岩～三宝山

【県内生育状況】 高山性の風衝地やそれに似た環境のカラマツなどの樹枝上に枝を取り巻くように着生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。日本固有種。本州中部に分布する葉状地衣。

4016 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕クイシウメノキゴケ

〔学名〕*Hypotrachyna crenata* (Kurok.) Hale

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 稀産種。秩父山地の亜高山帯地域に産するが、量的には極めて少ない。1964年以降の採集記録はない。

【県内分布状況】 三峰山(TNS)(県内唯一の産地)

【県内生育状況】 山地の岩石上に着生する。

【特記事項】 文献記録とTNS標本のみだが、本県以外では、三重、和歌山、徳島、高知県から記録されている葉状地衣。

4017 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕コウヤウメノキゴケ

〔学名〕*Hypotrachyna koyaensis* (Asahina) Hale

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地や外秩父山地で産するが、量的には少ない。

【県内分布状況】 小鹿野町岩殿沢、秩父市浦山、越生町黒山、栃本(TNS)

【県内生育状況】 平地から低山帯の樹皮上、岩石上に着生する。

【特記事項】 関東以南～九州にかけて、比較的暖かい地域に分布する葉状地衣。

4018 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕ノダケウメノキゴケ

〔学名〕*Hypotrachyna nodakensis* (Asahina) Hale

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地で産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 小鹿野町志賀坂峠、尾の内尾根、霧藻ヶ峰

【県内生育状況】 山地の樹皮や岩石上に着生する。

【特記事項】 関東以南～九州にかけて分布する葉状地衣。県境となる雲取山、雁峠、将監峠の山梨県側でも確認されている。

4019 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕ハコネゴンゲンゴケ

〔学名〕*Hypotrachyna revoluta* (Flörke) Hale

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地で産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 入川溪谷、秩父市浦山川俣

【県内生育状況】 低山地の樹皮や岩石上に着生する。

【特記事項】 関東以南～九州にかけて、比較的暖かい地域に分布する葉状地衣。

4020 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕ニューガサウメノキゴケ

〔学名〕*Hypotrachyna sinuosa* (Sm.) Hale

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

【評価所見】 希少種かつ稀産種。秩父山地亜高山帯地域で産するが、量的には極めて少なく、減少傾向にある。

【県内分布状況】 三国峠～十文字峠間(県内唯一の産地)

【県内生育状況】 山地のカラマツ等の樹枝上着生する。

【特記事項】 カテゴリを上位に変更。本州中部に分布が知られている葉状地衣。県境となっている将監峠・山梨県側や三国尾根・長野県側からも記録されている。また、八ヶ岳や入笠山などからも記録されている。

4021 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **タカネゴケモドキ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Melanelia hepaticon* (Ach.) A. Thell

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 大山、三宝山

【県内生育状況】 高山の非石灰質の岩上に直に着生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～本州中部の高山帯に分布する。黒褐色の小さな葉状地衣であることから見落としている可能性もある。

4022 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **コナタカネゴケ**

全国カテゴリ 情報不足(DD)

〔学名〕 *Melanelia soreliata* (Ach.) Goward & Ahti

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯地域で産し、量的には極めて少ない。1972年に日本新産で報告されたが、その後の記録はない。記録が新しいことで、現評価としている。

【県内分布状況】 大山（県内唯一の産地）

【県内生育状況】 高山性地域の非石灰質の岩上に着生する。

【特記事項】 環境省 2007 の新規掲載種。埼玉 RDB2005 追加種。県外分布もほとんど知られていないが、黒褐色の小さな葉状地衣体であるため、見落としている可能性もある。

4023 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **タカネゴケ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Melanelia stygia* (L.) Essl.

【評価所見】 稀産種。秩父山地の亜高山帯地域で産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 雲取山（県内唯一の産地）

【県内生育状況】 高山性風衝地の非石灰質岩上に着生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。隣接する中部山岳から北海道まで広く分布している。やや光沢のある黒い葉状地衣体は小さく、見落とされている可能性もある。

4024 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 **ツブクダチイ**

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Menegazzia caviisidia* Bijerke & P. James

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯に産するが、量的にも少ない。最近の分類学的再検討により記載され、報告された種である (Moon et al., 2006)。

【県内分布状況】 雁坂峠（県内唯一の産地）

【県内生育状況】 コメツガの樹皮上に着生する。

【特記事項】 新規掲載種（環境省 2007 の新規掲載種）。本州中部に分布する葉状地衣。野外調査を含め、標本等を再調査をする必要がある。

4025 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 **ウスキクダチイ**

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔学名〕 *Menegazzia squamatica* K. H. Moon, Kurok. & Kashiw.

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯に産するが、量的には少ない。最近の分類学的再検討により記載され、報告された種である (Moon et al., 2006)。

【県内分布状況】 十文字峠、雁坂峠～栃本間の地蔵岩

【県内生育状況】 コメツガの樹皮上に着生する。

【特記事項】 新規掲載種（環境省 2007 の新規掲載種）。本州中部に分布する葉状地衣。野外調査を含め、標本等を再調査をする必要がある。

4026 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕 クロカワアワビゴケ

〔学名〕 *Nephromopsis kurokawae* (Shibuichi & Yoshida) Kurok.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 希少種および稀産種。秩父山地に稀産し、量的にも少ない。新たな産地記録はない。さらに、産地の一つでは立枯れの木部着生は失われた可能性が大きい。

【県内分布状況】 大洞川惣小屋谷、三峰妙法ヶ岳

【県内生育状況】 山地のヒノキなどの老化した樹皮上に着生するも、わずかに岩上にも着生する。

【特記事項】 日本固有種。愛媛県・面河にも分布する葉状地衣。秩父、三峰山が模式産地だが、今のところ、着生の再確認がない。

4027 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕 キゴヘイゴケ

〔学名〕 *Parmeliopsis ambigua* (Wulfen) Nyl.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯地域で産するが、量的には少ない。1978年以降、新たな分布記録はない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 大洞川惣小屋谷(唯一の記録)

【県内生育状況】 亜高山の針葉樹(ヒノキ)の樹皮に着生する。

【特記事項】 北海道~本州中部に分布する葉状地衣。黄緑色の葉状体であるが小さいので見落としている可能性もある。

4028 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕 チヂレマツゲゴケ

〔学名〕 *Parmotrema crinitum* (Ach.) M. Choisy

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯で産するが、量的には極めて少ない。1980年以降新たな産地記録はない。

【県内分布状況】 秩父市大滝上中尾(唯一の記録)

【県内生育状況】 低山帯のウメの木の樹皮上に着生する。

【特記事項】 本州(福島県以南)の海岸やそれに近い低山地域に分布する葉状地衣。暖かい地域にみらる種類なので、見落としている可能性もある。

4029 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕 トゲタイワントコブシゴケ

〔学名〕 *Platismatia erosa* W. L. Culb. & C. F. Culb.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

【評価所見】 稀産種。秩父山地に稀産し、量的には少ない。1986年以降、新たな産地情報はない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 木賊山、甲武信岳

【県内生育状況】 亜高山のシラビソ等、針葉樹などの樹皮上に緩く着生する。

【特記事項】 環境省2007の新規掲載種。本州中部の埼玉、長野、山梨、静岡に分布している葉状地衣。長野県での記録は多い。

4030 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕 オオスルメゴケ

〔学名〕 *Tuckermannopsis ulophylloides* (Asahina) M. J. Lai

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 秩父山地の山地帯からその上部に産するが、量的には少ない。1982年以降、新たな産地情報は無いが、2005年の評価以降、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 小鹿野町尾の内谷尾根、秩父市大滝川又、雁坂峠、三国尾根、大血川、両神日向大谷

【県内生育状況】 山地の岩石(非石灰質)上や針葉樹の樹皮上に着生する。

【特記事項】 埼玉RDB2005から現カテゴリーに変更。日本固有種。本州関東以南~九州に分布する葉状地衣。

4031 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕コナヘリウスカワゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Tuckneraria laureri* (Kremp.) Randle & A. Thell

【評価所見】 稀産種。秩父山地の亜高山帯に産するが、量的には少ない。評価当初より、個体数等の変動もなく、推移しているものと思われる。

【県内分布状況】 三国尾根、大山、武信白岩～三宝山間、雲取山、木賊山（甲武信岳）

【県内生育状況】 亜高山帯のシラビソなどの針葉樹の樹皮上に着生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。本州中部の亜高山から高山に分布する葉状地衣。

4032 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕トガシアワビゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Tuckneraria togashii* (Asahina) Randle & A. Thell.

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯からその上部に産するが、量的には少ない。1995年以來、新たな分布記録はなく、減少傾向にある。

【県内分布状況】 三峰神社～雲取山間、秩父市大滝入川真の沢谷、秩父市大滝大血川、秩父市大滝大洞川惣小屋谷

【県内生育状況】 山地帯の老化したマツ類の樹皮や朽ち木に着生する。

【特記事項】 日本固有種。本州関東以南～四国に分布する葉状地衣。

4033 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕ヨコワサルオガセ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Usnea diffracta* Vain.

【評価所見】 秩父山地に産する普通種だが、減少傾向にあり、着生が確認できない産地もでてきている。

【県内分布状況】 秩父山地亜高山帯に記録。中津川大山沢、川又～雁坂峠、浦山大平山、両神山、雲取山、三国尾根、熊倉山

【県内生育状況】 ブナ帯から亜高山帯にかけての樹皮に着生し、垂れ下がる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～本州中部の主に亜高山帯に分布する樹枝状地衣。

4034 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕ナガサルオガセ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Usnea longissima* Ach.

【評価所見】 秩父山地に産する普通種だが、減少傾向にあり、着生が確認できない産地もでてきている。

【県内分布状況】 白岩山、将監峠、三国尾根、秩父市大滝中津川大山沢、秩父市大滝川又～雁坂峠間

【県内生育状況】 亜高山帯の針葉樹、カラマツ等の樹皮や枝先に絡みつき、垂れ下がる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～本州中部の主に亜高山帯に分布する樹枝状地衣。

4035 (ウメノキゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕アカヒゲゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕*Usnea rubicunda* Stirt.

【評価所見】 稀産種。秩父山地に産するが、量的には少ない。1976年に記録した産地だが、その後の記録がなく、唯一の分布記録となっている。

【県内分布状況】 三峰山（県内唯一の産地）

【県内生育状況】 山地のスギの樹皮や朽ち木上に着生し、垂れ下がる。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～四国に分布する樹枝状地衣、サルオガセの仲間。類似種と混同されて、見落としている可能性がある。

4036 (ウメノキゴケ科)

〔和名〕アカサルオガセ

〔学名〕*Usnea rubrotincta* Stirt.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

- 【評価所見】 稀産種。秩父山地に産するが、量的には少ない。
- 【県内分布状況】 入川溪谷沿い、大血川西谷、十文字峠～ベンケイ岩間
- 【県内生育状況】 山地の樹皮や朽ち木上、岩上にひげ状に着生する。時には垂れ下がる。
- 【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～九州に分布する樹枝状地衣、サルオガセの仲間。類似種と混同されて、見落としている可能性がある。

4037 (カブトゴケ科)

〔和名〕トゲカブトゴケ

〔学名〕*Lobaria kazawaensis* (Asahina) Yoshim.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

- 【評価所見】 希少種および稀産種。秩父山地に希に産し、量的にも極めて少ない。1932年以降、県内の採集記録はない。
- 【県内分布状況】 雲取山(TNS)(県内唯一の産地)
- 【県内生育状況】 山地の樹皮に着生する。
- 【特記事項】 日本固有種。本州中部、福島県、群馬県、新潟県、埼玉県から報告されている葉状地衣。県内では既に絶滅しているのかもしれない。

4038 (カブトゴケ科)

〔和名〕ツブカブトゴケ

〔学名〕*Lobaria tuberculata* Yoshim.

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリ ランクなし

- 【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯およびその上部に産する。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。
- 【県内分布状況】 三国峠～三国山頂間、三峰山、雁掛峠、浦山仙元峠
- 【県内生育状況】 ブナ帯から亜高山帯にかけての樹皮上に着生する。
- 【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～本州中部の山地帯より上部に分布する葉状地衣。

4039 (カブトゴケ科)

〔和名〕キンブチゴケ

〔学名〕*Pseudocyphellaria aurata* (Ach.) Vain.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリ ランクなし

- 【評価所見】 希少種および稀産種。県西部の山地に極めてまれに産した。1978年以降、県内では新たな分布記録はない。
- 【県内分布状況】 飯能市坂元(TNS; 現・上長沢)(県内唯一の記録)
- 【県内生育状況】 温暖な沢沿いのケヤキの樹皮に着生していた。
- 【特記事項】 本州～九州の暖かい地域に分布する葉状地衣。唯一の産地においても、その着生が確認できていない。県内では既に絶滅しているのかもしれない。

4040 (カブトゴケ科)

〔和名〕トゲヨロイゴケ(タキミヨロイゴケ)

〔学名〕*Sticta weigelii* (Ach.) Vain.

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリ ランクなし

- 【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯およびその上部に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。
- 【県内分布状況】 横瀬町生川～武甲山、両神山
- 【県内生育状況】 山地の岩石上のコケを覆うように着生する。
- 【特記事項】 埼玉 RDB2005 から現カテゴリに変更。本州関東以南～九州・沖縄に分布する葉状地衣。

4041 (カラタチゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 ラマリナ・シナノアナ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Ramalina shinanoana* Kashiw.

【評価所見】 稀産種。秩父山地に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 雲取山、三国尾根

【県内生育状況】 山地のカラマツの樹枝、朽ち木上にひげ状に着生する。

【特記事項】 本州中部、今のところ長野県、埼玉県に分布する樹枝状地衣。小さな個体なので、見落とししている可能性もある。

4042 (カラタチゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 ヒロハカラタチゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Ramalina sinensis* Jatta

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、量的に減少してしまった産地もある。産地とも減少傾向にある。

【県内分布状況】 三国尾根、奥秩父林道脇

【県内生育状況】 山地帯の主に落葉広葉樹の枝よりも幹の樹皮上に着生する。

【特記事項】 北海道～本州中部、隣接する長野県や山梨県においては、比較的多くの産地が記録されている樹枝状地衣。

4043 (キゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 ヒメカムリゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Pilophorus curtulum* Kurok. & Shibuichi

【評価所見】 秩父山地の亜高山帯に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 雲取山、熊倉山、雁坂峠

【県内生育状況】 岩石（非石灰質）上に着生する。

【特記事項】 日本固有種。北海道～本州中部、長野県、山梨県、栃木県、埼玉県に分布する樹枝状地衣。小さく目立たないため、見落とししている可能性もある。

4044 (キゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 オオカムリゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Pilophorus acicularis* (Ach.) Th. Fr.

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産するが、量的には少ない。1979年以来、新たな分布記録はないが、2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 秩父（TNS）、十文字峠、真の沢溪谷、甲武信岳

【県内生育状況】 山地の岩石（非石灰質）上に着生する。

【特記事項】 本州中部、長野県、山梨県、埼玉県、東京都に分布する小さなこん棒状の樹枝状地衣。長野県での記録は多い。

4045 (ザクロゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 コフキザクロゴケ

全国カテゴリ 情報不足(DD)

〔学名〕 *Loxospora glaucomiza* (Nyl.) Kalb & Staiger

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯およびその上部に産するが、量的には少ない。1976年の初記録以来、新たな分布記録はない。

【県内分布状況】 両神山（県内唯一の産地）

【県内生育状況】 亜高山のコメツガ等の樹皮上に着生する。

【特記事項】 所属科名変更。埼玉 RDB2005 追加種。北海道、広島県、埼玉県、徳島県に分布する固着地衣。小さく目立たない地衣体であるため、見落とされている可能性もある。

4046 (サビイボゴケ科)

〔和名〕 オオサビイボゴケ

〔学名〕 *Brigantiaea nipponica* (M. Sato) Hafellner

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産し、量的には少ない。1972年の初記録以降、その後の分布情報は無い。

【県内分布状況】 大山(県内唯一の産地)

【県内生育状況】 山地の針葉樹の樹皮上に着生する。

【特記事項】 新規掲載種(環境省2007)。北海道～本州に分布する固着地衣。小さく目立たない地衣体であるため、見落とされている可能性もある。

4047 (センニンゴケ科)

〔和名〕 コツブセンニンゴケ

〔学名〕 *Baeomyces aggregatus* Asahina

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯地域に産する。

【県内分布状況】 雁坂峠黒岩、両神山

【県内生育状況】 山地のスギやヒノキの老樹皮上あるいはその立ち枯れ木上に着生する。比較的大きなコローとなることもある。

【特記事項】 富山県以南の本州や九州に分布記録がある。褐色の小さなブドウ状の子器が目立つ鱗片状地衣。

4048 (センニンゴケ科)

〔和名〕 センニンゴケ

〔学名〕 *Dibaeis baeomyces* (L. f.) Rambold & Herte

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地や県西部の低山に産するも、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 両神山、日高市横手

【県内生育状況】 山地の地上や岩石上に着生する。

【特記事項】 北海道～四国に分布する子柄が目立つ鱗片状地衣。小さな個体が故に、見落としている可能性もある。

4049 (チャシブゴケ科)

〔和名〕 アワモチゴケ

〔学名〕 *Lecanora decorata* Vain.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地の高山性風衝地に産するが、量的には少ない。1976年以降、新たな産地記録はない。2005年の評価以降、個体数等の変動もなく、推移していると思われる。

【県内分布状況】 三宝山(県内唯一の産地)

【県内生育状況】 山頂や尾根筋の高山性風衝地、岩角地の非石灰質の岩上に直に着生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。本州岩手県～中部に分布する高山性固着地衣。

4050 (ツブミイボゴケ科)

〔和名〕 フジカワゴケ

〔学名〕 *Toninia tristis* subsp. *fujikawae* (M. Sato) Timdal

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

【評価所見】 希少種および稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、量的には少ない。1982年以来、新たな産地記録はない。

【県内分布状況】 梓白岩、二子山

【県内生育状況】 山頂や尾根筋の石灰岩露頭の垂直面に着生することが多い。既存産地で継続して生育が確認される。

【特記事項】 所属科名変更(環境省2007)。日本固有種。

4051 (ツメゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

〔和名〕 ウチキウラムゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Nephroma servitianum* Gyeln.

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯およびその上部に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 白泰山～赤沢岳、雁坂峠、雲取山

【県内生育状況】 山地の樹皮上に着生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。日本固有種。北海道から四国に分布する葉状地衣。褐色の地衣体であるため、見落とされている可能性もある。

4052 (ツメゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

〔和名〕 フイリツメゴケ (ヒメツメゴケモドキ)

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Peltigera didactyla* (With.) J. R. Laundon

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、1982年以降、新たな産地記録はない。

【県内分布状況】 秩父市黒谷、大血川東谷、秩父市浦山地内大平山

【県内生育状況】 林床や道路沿いのノリ面上の蘚類や土壌上に着生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～本州中部に分布する葉状地衣。かつて人家の麦わら屋根に生育していたが、いまではその人家はない。

4053 (ツメゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類 (CE)

〔和名〕 コヒラミツメゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧 II 類 (VU)

〔学名〕 *Peltigera nigripunctata* Bitter

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、量的には少ない。1969年以来、新たな採集記録はない。県内では、すでに絶滅してしまった可能性が大きい。

【県内分布状況】 三峰山 (TNS)、白岩山 (TNS)

【県内生育状況】 亜高山帯の地上に蘚類などと混生する。

【特記事項】 新規掲載種 (環境省 2007)。北海道から本州中部に分布する比較的大型の葉状地衣。

4054 (ツメゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧 I 類 (CE)

〔和名〕 ヒラミヤイトゴケ

全国カテゴリ 絶滅危惧 I 類 (CE)

〔学名〕 *Solorina platycarpa* Hue

【評価所見】 希少種および稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 白岩山、梓白岩、奥秩父林道脇石灰岩露頭

【県内生育状況】 山地の石灰岩露頭や石灰質土壌上に着生する。

【特記事項】 日本固有種。今のところ、本州中部以南、埼玉県、長野県、徳島県に分布する葉状地衣。

4055 (テロスキステス科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)

〔和名〕 アカサビゴケ

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Xanthoria mandschurica* (Zahlbr.) Asahina

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯からその上部に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 三国尾根梓白岩、小鹿野町二子山

【県内生育状況】 山頂や尾根筋の石灰岩露頭の垂直面に直に着生することが多い。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～本州に分布する葉状地衣。橙赤色の地衣体は目立つ。

4056 (ハナゴケ科)

〔和名〕ヘラゴケ

〔学名〕*Glossodium japonicum* Zahlbr.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

【評価所見】 希少種かつ稀産種。秩父山地に産し、量的にも少ない。三峰山が模式産地だが、その生育環境は大きく変貌したため、現在、着生確認はできていない。

【県内分布状況】 三峰山、熊倉山、水晶山

【県内生育状況】 山地の針葉樹の朽ちた切り株などに着生する。

【特記事項】 環境省2007の新規掲載種。北海道～四国の山地に分布する鱗片状地衣。地衣体に小さなへら形の子器を付けた柄ができる。朽木の上という特殊な生育環境をもっているため、既存産地確認は難しいといえる。

4057 (ヘリトリゴケ科)

〔和名〕モクスゴケモドキ (ヒメカイガラゴケ)

〔学名〕*Psorula rufonigra* (Tuck.) Gotth. Schneid.

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父地域の低山や荒川流域に産するが、量的には少ない。評価当初より個体数等の変動もなく、推移しているものと思われる。

【県内分布状況】 長瀬町地内荒川川岸、小鹿野町観音山

【県内生育状況】 川岸や岩山の安定した岩上、あるいはその割れ目に堆積した土や砂の上に着生する。

【特記事項】 埼玉RDB2005追加種。本州中部以南～九州に分布する鱗片状固着地衣。新たな産地として、山地の岩山が追加された。

4058 (ムカデゴケ科)

〔和名〕イトゲジゲジゴケ

〔学名〕*Heterodermia boryi* (Fée) Kr. P. Singh & S. R. Singh

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、個体数等の変動もなく、推移していると思われる。

【県内分布状況】 両神山、川又、三峰山、栃本～白泰山、小倉沢赤岩峠

【県内生育状況】 山地の樹皮、または岩石にセン類と混生。

【特記事項】 埼玉RDB2005追加種。北海道～四国に分布する葉状で、細長く伸長した列片をもつ地衣体となる。

4059 (ムカデゴケ科)

〔和名〕チヂレゲジゲジゴケ

〔学名〕*Heterodermia dissecta* (Kurok.) D. D. Awasthi

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯地域に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、個体数等の変動もなく、推移していると思われる。

【県内分布状況】 小鹿野町観音山、小鹿野町岩殿沢

【県内生育状況】 暖地の岩石にセン類と混生する。

【特記事項】 埼玉RDB2005追加種。本州関東以南～九州に、比較的暖かい地域に分布する葉状地衣。

4060 (ムカデゴケ科)

〔和名〕ラッパゲジゲジゴケ

〔学名〕*Heterodermia hypochraea* (Vain.) Swinscow & Krog

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯地域にも産するが、量的には少ない。1986年以降、新たな産地記録はない。

【県内分布状況】 秩父市浦山大平山、大洞川惣小屋谷

【県内生育状況】 山地の岩石や樹皮上に着生。

【特記事項】 埼玉RDB2005で現学名に、さらに現カテゴリーに変更。北海道～九州の山地に分布する葉状地衣。小さな個体なので、見落としている可能性もある。

4061 (ムカデゴケ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 **エゾハクフンゴケ**

全国カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔学名〕 *Physconia hokkaidensis* Kashiw.

- 【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、量的には少ない。1982年以来、新たな分布記録はない。
- 【県内分布状況】 大血川、秩父市浦山地内大平山
- 【県内生育状況】 山地帯の岩上や林道脇の崖に着生する。
- 【特記事項】 環境省 2007 の新規掲載種。北海道～本州中部に分布する葉状地衣。隣接する長野県のハケ岳では比較的普通にみられる。

4062 (モジゴケ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **カバイロイワモジゴケ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Graphis cervina* Müll. Arg.

- 【評価所見】 稀産種。2003年に県西部の大高取山から採集され、それ以降の産地記録はない。
- 【県内分布状況】 入間郡越生町大高取山(県内唯一の産地)
- 【県内生育状況】 暖地の岩石(チャート)上に着生する。
- 【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。本州関東以南～九州の平地に分布する固着地衣。岩上に固着するモジゴケ類。まぎれやすい地衣体であるため、見落としている可能性もある。

4063 (リキナ科)

埼玉カテゴリ 準絶滅危惧(NT)

〔和名〕 **チヂレケゴケ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Ephebe japonica* Asahina & Henssen

- 【評価所見】 稀産種。秩父山地に産するも、量的には少ない。1978年の採集が唯一の記録となり、その後の分布記録はない。
- 【県内分布状況】 三峰妙法ヶ岳(県内唯一の産地)
- 【県内生育状況】 山地の日当たりのよい露岩上にコケ類と混じって着生する。
- 【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。日本固有種。本州～四国に分布する黒褐色の糸状地衣。見落とされている可能性がある。

4064 (リキナ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

〔和名〕 **イシバイキノリ**

全国カテゴリ 情報不足(DD)

〔学名〕 *Thyrea confusa* Henssen

- 【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯からその上部に産し、量的にも少ない。2005年の評価以降、現況を維持していると思われる。
- 【県内分布状況】 雁坂峠、梓白岩、二子山
- 【県内生育状況】 山地の石灰岩上に着生する。
- 【特記事項】 環境省 2007 の新規掲載種。学名変更。岩手県以南～九州の山地に分布する黒い鱗片状地衣。同定が難しいことから、見落とされている可能性もある。

4065 (リキナ科)

埼玉カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類(CE)

〔和名〕 **アカツブノリ**

全国カテゴリ ランクなし

〔学名〕 *Synalissa symphorea* (Ach.) Nyl.

- 【評価所見】 稀産種。秩父山地の山地帯から亜高山帯に産するが、量は少ない。1988年以降、新たな産地記録はないが、2005年の評価以降、現況を維持していると思われる。
- 【県内分布状況】 二子山、梓白岩
- 【県内生育状況】 山頂や尾根筋の石灰岩露頭の垂直面に直に着生する。
- 【特記事項】 本州中部以南～九州の石灰岩地に分布する膠質状鱗片地衣で、黒褐色の小さな塊状地衣体。確かな記録はないが、武甲山からの産地消滅が推察される。

4066 (リキナ科)

〔和名〕 **キセガワノリ**

〔学名〕 *Thyrea asahinae* (Yoshim.) Yoshim.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父地域荒川河川沿い地域に産し、量は極めて少ない。1978年以降、新たな産地記録はないが、2005年の評価以降、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 長瀨町荒川川岸（県内唯一の産地）

【県内生育状況】 川岸の岩石（非石灰質）上に着生する。

【特記事項】 本州中部以南、四国、九州の川岸岩上に分布する黒褐色の鱗片状地衣。現産地は観光地であるためコロニーの破損が懸念される。

4067 (リキナ科)

〔和名〕 **ミタキノリ**

〔学名〕 *Thyrea hondoana* Zahlbr.

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父地域の荒川河川沿い地域に産し、量は極めて少ない。1978年以降、新たな産地記録はないが、2005年の評価以降、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 長瀨町荒川川岸（県内唯一の産地）

【県内生育状況】 川岸や川原の岩石（非石灰質）上に着生する。

【特記事項】 本州、四国の川岸岩上に分布する黒褐色の鱗片状地衣。現産地は観光地であるためコロニーの破損が懸念される。

4068 (リキナ科)

〔和名〕 **オオバキノリ** (オオバキセガワノリ)

〔学名〕 *Thyrea latissima* Asahina

埼玉カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

全国カテゴリー 絶滅危惧 I 類(CE)

【評価所見】 希少種および稀産種。秩父山地の山地帯に産するが、量的には極めて少ない。1982年以来、新たな分布記録はないが、2005年の評価以降、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 秩父市大滝神岡（県内唯一の産地）

【県内生育状況】 山地の石灰岩露頭の垂直面に直に着生する。

【特記事項】 本州（埼玉県、岡山県）と四国（徳島県）に分布する希少種で、黒灰色の鱗片状地衣。既存産地で継続して生育が確認される。

4069 (担子地衣)

〔和名〕 **アオウロコゴケ**

〔学名〕 *Lichenomphalia hudsoniana* (Jennings) Redhead, Lutzoni, Moncalvo & Vilgalys

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧(NT)

全国カテゴリー ランクなし

【評価所見】 稀産種。秩父山地亜高山帯地域に産するが、量的には少ない。2005年の評価以降、大きな環境変化も認められず、現況を維持していると思われる。

【県内分布状況】 雁坂小屋付近、三国峠～十文字峠間、大山（写真記録）

【県内生育状況】 山地の腐朽した藓類上や土上に着生する。

【特記事項】 埼玉 RDB2005 追加種。北海道～本州に分布する鱗片状の担子地衣で、担子菌のヒメサカズキタケ属のきのこを発生させる。